資料１

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

PRESS RELEASE

令和 8 年 11 月 16 日

岡山大学病院で「アクーゴ®脳内移植用注」による細胞治療を初めて実施

◆発表のポイント

・岡山大学病院脳神経外科では、外傷性脳損傷に伴う慢性期の運動麻痺に対し、再生医療等製品「アクーゴ®脳内移植用注」を用いた細胞移植治療を当院で初めて実施しました。

・アクーゴ®は、損傷した脳組織の周辺に細胞を移植することで、運動機能の改善を目指す新たな治療法であり、今回の治療は国内市販後 2 例目の投与となります。

・今回の治療実施により、従来の治療では十分な改善が得られなかった患者さんに新たな治療選択肢を提供するとともに、今後の有効性・安全性に関する知見の蓄積につながることが期待されます。

岡山大学学術研究院医歯薬学域（脳神経外科）の田中將太教授は 2026 年 10 月 27 日、外傷性脳損傷に伴う慢性期運動麻痺が残る患者さんに対し、再生医療等製品「アクーゴ®脳内移植用注」（一般名：バンデフィテムセル）を用いた細胞移植治療を当院で初めて実施しました。国内では市販後 2 例目の投与となります。

アクーゴ®は、サンバイオ株式会社（東京都）が開発したヒト骨髄由来間葉系幹細胞※1) を加工した製品で、2024 年 7 月に条件及び期限付き製造販売承認を取得し、2026 年 5 月に販売が開始されました。損傷した脳組織の周辺に細胞を移植し、神経組織の修復に関わる働きを促すことで、運動機能の改善を目指します。

外傷性脳損傷後の運動麻痺は長期間残存することがあり、従来の治療選択肢は限られていました。当院では、脳神経外科を中心に関係診療科・部門が連携し、患者さんの適応評価や細胞製品の管理を含む診療体制を整備してきました。

本治療は新たな治療選択肢として期待されますが、その有効性や長期的な安全性については、今後も慎重な評価が必要です。

◆研究者からのひとこと

岡山大学病院で、アクーゴ®による細胞移植治療を初めて実施しました。日本から、脳損傷後の運動機能の回復を目指す新たな治療が始まっています。この一歩が、これまで治療選択肢の限られていた患者さんの希望につながることを願っています。



田中教授

■発表内容

＜背景＞

外傷性脳損傷は、交通事故や転倒・転落などによって脳が損傷される疾患です。損傷の部位や程度によっては、運動麻痺、認知機能障害、言語障害などが後遺症として残り、日常生活や社会復帰に大きな影響を及ぼします。特に、慢性期に残存する運動麻痺は改善が難しく、リハビリテーションを中心とした従来の治療に加え、新たな治療選択肢が求められてきました。

＜アクーゴ®による細胞移植治療に関して＞

「アクーゴ®脳内移植用注」（一般名：バンデフィテムセル）は、サンバイオ株式会社が開発した、健康成人の骨髄由来間葉系幹細胞を加工した再生医療等製品です。移植細胞から分泌される神経栄養因子などを介して、損傷した神経組織の修復を促し、運動機能の改善につながることが期待されています。ただし、その作用機序の全容は解明されていません。

治療では、MRI などの画像情報をもとに移植位置を計画し、定位脳手術※2) と呼ばれる精密な手術手法を用いて、損傷した脳組織の周辺に細胞を移植します。

アクーゴ®は、臨床試験の結果などに基づき、2024 年 7 月に条件及び期限付き製造販売承認を取得しました。この承認制度では、製造販売後も有効性や安全性に関するデータを収集し、継続的に検証することが求められています。

＜岡山大学病院での初回治療に関して＞

岡山大学病院では、本治療の導入に向けて、脳神経外科を中心に関係診療科・部門が連携し、患者さんの適応評価、術前画像検査による移植位置の検討、細胞製品の管理などを含む診療体制を整備してきました。

2026 年 10 月 27 日、外傷性脳損傷に伴う慢性期運動麻痺が残存する患者さんに対して、当院で初めてアクーゴ®による細胞移植治療を実施しました。手術は予定した手順に従って終了し、現在、術後経過を慎重に観察しています。

今後は、運動機能の変化を継続的に評価するとともに、適切なリハビリテーションを行い、患者さんの機能回復と生活の質の向上を目指します。

＜社会的な意義＞

アクーゴ®による細胞移植治療は、慢性期の外傷性脳損傷に対する新たな治療選択肢として期待されています。一方、治療効果には個人差があり、その有効性や長期的な安全性については、今後も慎重な検証が必要です。

岡山大学病院では、患者さんの安全を最優先に、治療後の経過を丁寧に評価し、本治療に関する知見の蓄積と適正な実施に努めてまいります。

■補足・用語説明

1）ヒト骨髄由来間葉系幹細胞：ヒトの骨髄から採取される細胞の一種で、骨や軟骨、脂肪などの細胞に変化する能力を持っている。炎症を抑えたり、組織の修復を助けたりする働きがあることから、さまざまな病気やけがに対する再生医療への応用が研究されている。

2）定位脳手術：頭蓋骨に小さな穴を開け、専用のフレームを固定して画像診断装置などで確認しながら、脳内の特定の位置に正確に器具を到達させて行う手術。

＜お問い合わせ＞
岡山大学学術研究院医療開発領域（岡山大学病院脳神経外科）
助教　金　恭平
（電話番号）086-235-7336
（FAX）086-235-7636

Japan. Committed to the SDGs
岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。
3 すべての人に健康と福祉を